

# 令和8年度 新川中学校学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：32006

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>【全国学力・学習状況調査より】</p> <p>○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う子どもの割合は、全国平均よりも2.3%増加している。</p> <p>○授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う子どもの割合は、全国平均よりも6%上回っている。</p> <p>○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると、9割以上の子どもが回答しており、全国平均よりも1.1%上回っている。</p> <p>◇学習内容の振り返りを通して次の学びにつなげる力が、全国平均を上回って育成されている。また、学んだことを次の学習や実生活に生かす力が高く、活用力の伸長が見られる。協働的に課題解決に取り組む姿勢も高く、主体的・対話的な学びが定着してきている。</p>	<p>【全国学力・学習状況調査より】</p> <p>●自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う子どもの割合は、全国平均よりも3.4%下回っている。</p> <p>●各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたと思う子どもの割合は、全国平均よりも3.9%下回っている。</p> <p>◇自分の考えを分かりやすく伝えるための構成や表現の工夫に課題が見られる。また、各教科で学んだ内容を活用して自分の考えをまとめる力が十分とはいえない。今後は、思考を整理し表現する力と、学びを関連付けて活用する力の育成が必要である。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>【札幌市全体の共通指標に基づくアンケートより】</p> <p>・「人のよいところを見付けようとしている。」 R5 88.2% → R6 91.2% → R7 94.5%</p> <p>・「自分が必要とされていると感じる。」 R5 65.6% → R6 71.6% → R7 78.4%</p> <p>◇「人のよさを見付けようとする姿勢」は年々向上しており、相互承認の感度は着実に高まっている。一方で、「自分が必要とされている」という実感は依然として低位にあり、協働の中で自己有用感を実感できる取組の一層の充実が課題である。</p>	

## 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 【協働を通して磨く相互承認の感度】の現状と課題

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>◇研究主題：「知的好奇心や習熟度によって、『どの子にも』を意識した授業の創造」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が課題を自分事として捉え、学びの見通しをもつ力の充実</li> <li>・イントロダクション【単元の導入】の充実</li> <li>・生徒が自己選択・自己決定できる個別探究の充実</li> <li>・生徒が他者を求め、対話によって思考を再構築できる協働探究の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校の特長を生かした生徒会・委員会活動の充実</li> <li>・小中一貫した教育における児童会と生徒会が連携した自治活動の充実</li> <li>・「新川ルール」に基づく生徒自身に物事の本質や意義を考えさせる指導・支援の充実</li> </ul>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇様々なツールの中から適当なものを、生徒が自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について 指導の機会を設ける。</p> <p>◇パートナー校との連携のために、オンラインミーティングの機会を作り、子ども同士の声をつなげられるようにする。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

